

5 ソーシャル・キャピタルの醸成に関わるもの（まとめ）

（1）年代（年齢）との相関性

① ネットワーク（地域の人との付き合い）

年代が高くなるにつれて、地域の人と深い付き合いをしている人の割合が高くなる傾向が見られる。

② ネットワーク（地域の人との面識・交流）

年代が高くなるにつれて、地域の人との面識・交流がある人の割合が高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加（地縁的な活動への参加）

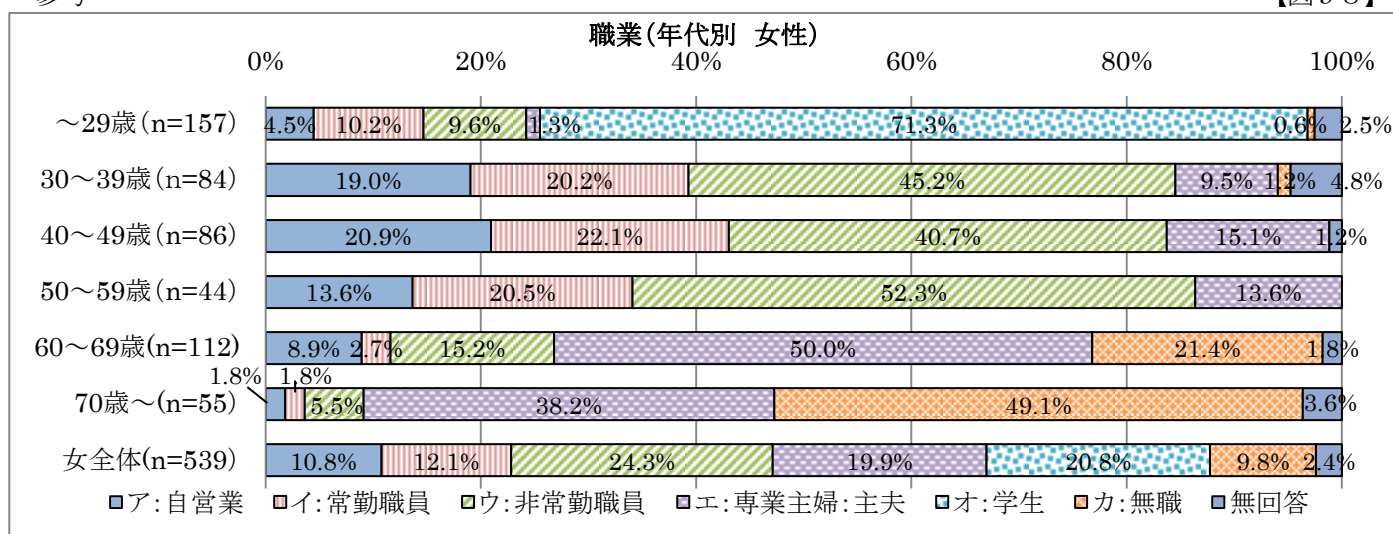
年代が高くなるにつれて、地縁的な活動に参加している人の割合が高くなる傾向が見られる。

④ 社会参加（グループ・サークル活動）

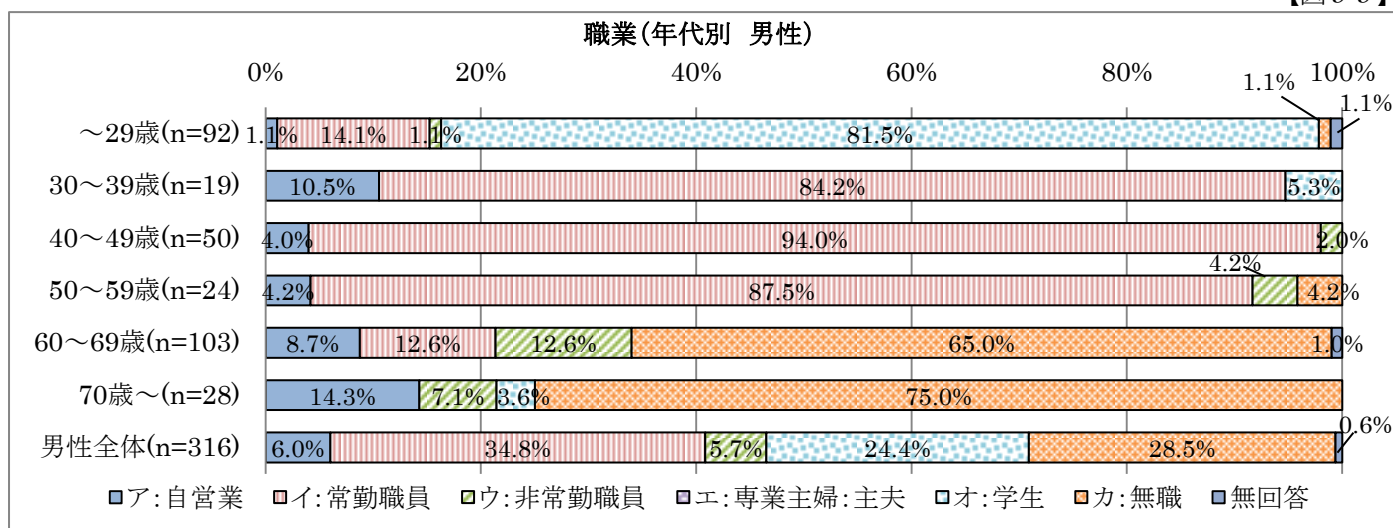
年齢が高くなるにつれて、グループ・サークル活動に参加している人の割合が高くなる傾向が見られる。

参考

【図98】



【図99】



29歳以下は、学生と回答した人が占める割合が高い。年代が高い人（60～69歳、70歳～）は、女性では専業主婦、無職、男性では無職と回答した人の割合が高い。年代（年齢）における傾向の特徴として、これらの影響があることも想定できる。

(2) 居住年数との相関性

① ネットワーク（地域の人との付き合い）

居住年数が長くなるにつれて、地域の人と深い付き合いをしている人の割合が高くなる傾向が見られる。

② ネットワーク（地域の人との面識・交流）

居住年数が長くなるにつれて、地域の人との面識・交流がある人の割合が高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加（地縁的な活動への参加）

居住年数が長くなるにつれて、地縁的な活動に参加している人の割合が高くなる傾向が見られる。

(3) 同居家族との相関性

① 配偶者との同居

ア ネットワーク（地域の人との付き合い）

配偶者と同居している人には、地域の人と深い付き合いをしている人の割合が高くなる傾向が見られる。特に男性に見られる。

イ ネットワーク（地域の人との面識・交流）

配偶者と同居している人には、地域の人との面識・交流がある人の割合が高くなる傾向が見られる。特に女性に見られる。

ウ 信頼（一般的な人への信頼）

配偶者と同居している人には、一般的に人は信頼できると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。

エ 社会参加（地縁的な活動への参加）

配偶者と同居している人には、地縁的な活動に参加している割合が高くなる傾向が見られる。特に男性に見られる。

② 子どもとの同居

ア ネットワーク（地域の人との付き合い）

子どもと同居している人には、地域の人と深い付き合いをしている人の割合が高くなる傾向が見られる。

イ ネットワーク（地域の人との面識・交流）

子どもと同居している人には、地域の人との面識・交流がある人の割合が高くなる傾向が見られる。

ウ 信頼（一般的な人への信頼）

子どもと同居している人には、一般的に人は信頼できると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。

エ 社会参加（地縁的な活動への参加）

子どもと同居している人には、地縁的な活動に参加している割合が高くなる傾向が見られる。特に女性に見られる。

③ 自分の親との同居

ア ネットワーク（地域の人との付き合い）

自分の親と同居している人には、地域の人と深い付き合いがほとんどない人の割合が高くなる傾向が見られる。

イ 信頼（一般的な人への信頼）

自分の親と同居している人には、一般的に人は注意するに越したことはないと思う人の割合が高くなる傾向が見られる。

ウ 社会参加（地縁的な活動への参加）

自分の親と同居している人には、地縁的な活動に参加していない割合が高くなる傾向が見られる。

④ その他

社会参加（ボランティア・NPO・市民活動への参加）には同居家族の影響は少ない。

【参考】

地縁的な活動と同居家族の相関性、特に子供との同居の相関性については、30～39歳、40～49歳、50～59歳の女性の参加している（1：週3回以上～5：年数回程度の合計）割合が比較的高いことからもうかがえる。これは、この年代は子どもとの同居の割合が高い年代であるからと想定できる。（【図100】【図102】参照）

問3(5)の記述にも「義務教育終了とともに（地域活動への）参加が少なくなる。（40代女性）」、「子育てが終わると活動が少なくなる。（40代女性）」、「子どもたちが小中学校を修了してしまうと地域の人とのふれあいがぐっと減ってしまい、さび

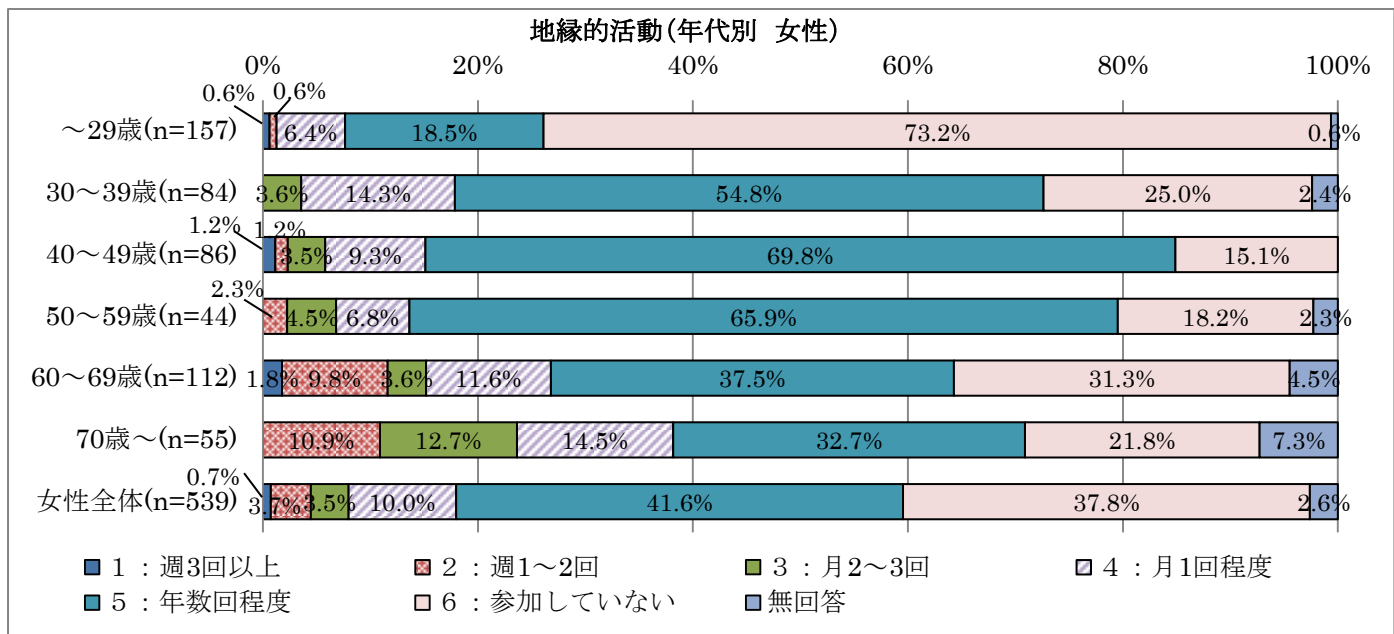
しい。(50代女性)」等コメントがあることからそれがうかがえる。よって、女性のこの世代における地縁的な活動は、主に子ども会育成会活動等の子どもに関わるものであることが想定できる。

配偶者との同居についてであるが、男性の地縁的な活動への参加状況との相関性が現れている。これについては、60～69歳、70歳以上の男性の参加している（1：週3回以上～5：年数回程度の合計）割合が比較的高く、この年代は配偶者との同居の割合が高いことによるものと思われる。（【図101】【図103】参照）

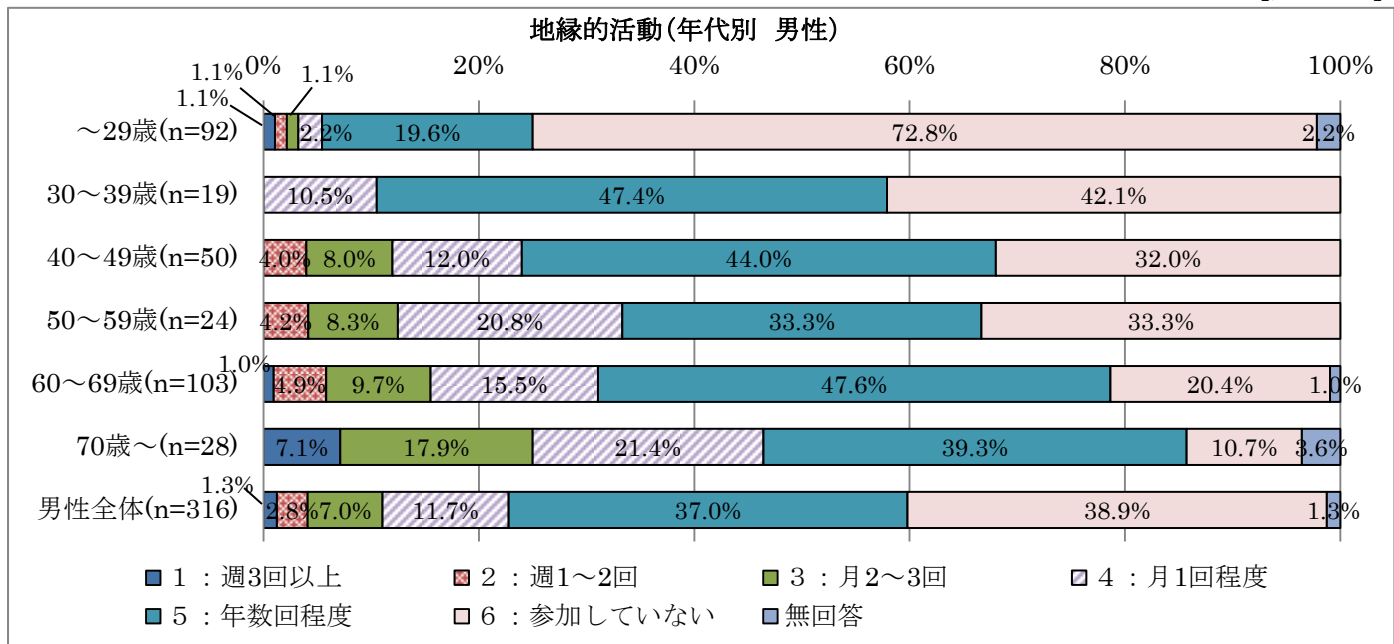
ただし、男女別の地縁的な活動への参加状況を比較してみると、男女共に子育てや子どもに関わる40～49歳、50～59歳では女性の活動が優位で、男性の活動が活発になるのは60歳以降であることから、配偶者との相関性によるものというよりも、定年退職等で時間が取れるようになったこと、さらに親との同居の割合が大きく低下していることから、世代交代があったであろうことの影響が強いものと思われる。

また、ここには子育ては女性、仕事は男性が中心という男女共同参画上の課題も見え隠れしている。

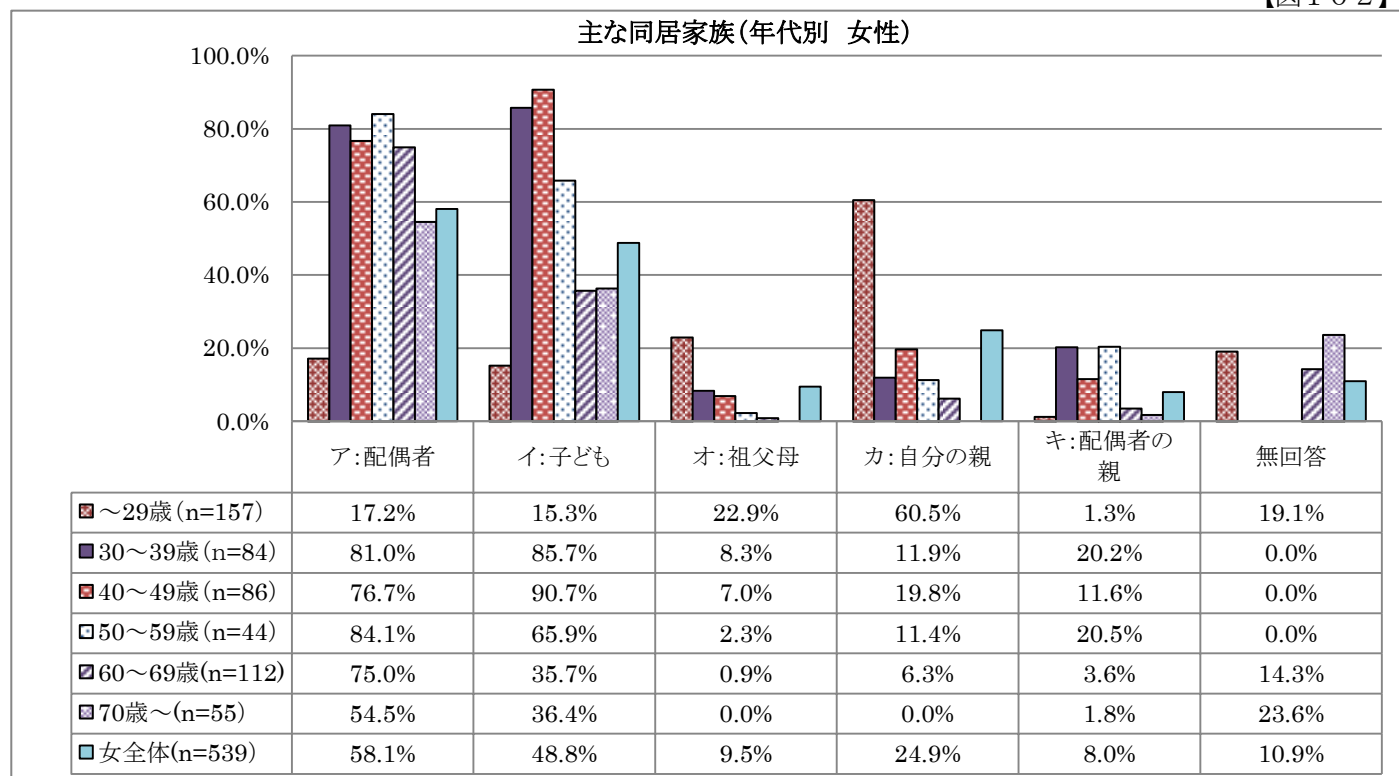
【図100】



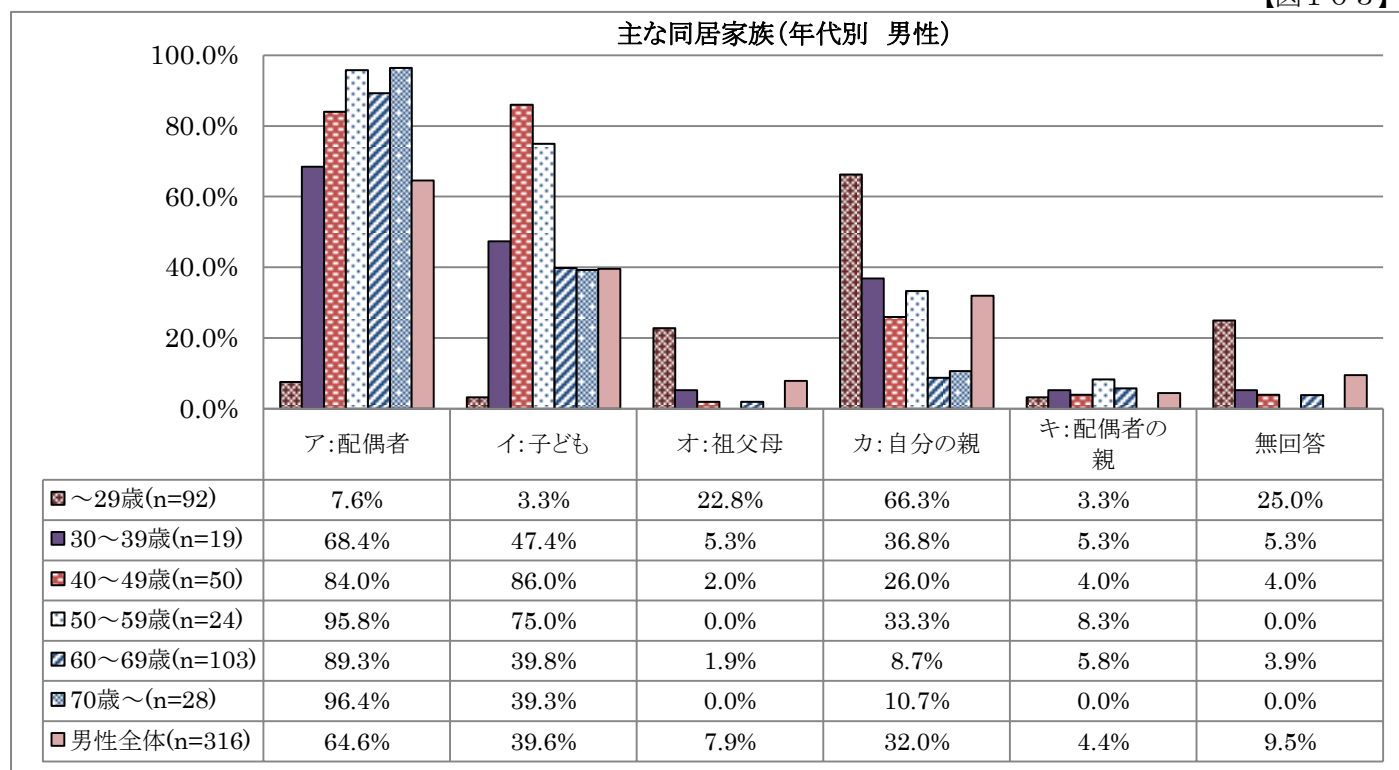
【図101】



【図102】



【図103】



(4) 要素同士の相関性

① ネットワーク同士の相関から

地域の人との面識・交流がある人ほど、地域の人と深く付き合っている人の割合が高くなる傾向が見られる。また、地域の多くの人との面識・交流がある人は、地域の人と深く付き合っている人の割合が高いが、地域の人と深く付き合っているから、地域の多くの人との面識・交流があるとは限らない。

② ネットワークと信頼との相関から

地域の人との面識・交流がある人、地域の人と深く付き合っている人ほど、一般的に人は信頼できると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。また、地域の人との付き合いが、面識・交流よりもやや強く影響すると考えられ、信頼がネットワークを生むというよりも、ネットワークの影響から信頼が生まれると思われることから、信頼が生まれるには、(地域の) 人との付き合いの影響が強いことがうかがえる。

③ ネットワークと社会参加との相関から

地域の人と深く付き合っている人、地域の人と面識・交流がある人ほど、地縁的な活動、ボランティア・NPO・市民活動に参加している割合が高くなる傾向が見られる。また、どちらかと言えば、地域の人との付き合いの方が、地域の人との面識・交流よりも活動への参加との相関性がうかがえる。

④ 信頼と社会参加との相関から

地縁的な活動、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人の方が、一般的に人は信頼できると思う人の割合が高くなる傾向が見られる。

⑤ 社会参加同士の相関から

地縁的な活動への参加とボランティア・NPO・市民活動への参加には相関性が見られ、いずれの活動にも関わる人が多い傾向が見られる。どちらかと言えば、ボランティア・NPO・市民活動に参加していて、地縁的な活動にも参加している人の方が、地縁的な活動をしていて、ボランティア・NPO・市民活動に参加している人の割合よりも高くなる傾向が見られる。

⑥ まとめ

全体として、要素同士には相関性がある。特にネットワークの地域の人との付き合いが、信頼、社会参加に影響がある様子がうかがえる。